

研究課題番号	5-2105
研究課題名	対策によるオゾン濃度低減効果の裏付けと標準的な将来予測手法の開発
研究実施期間	2021年度～2023年度
研究機関名	国立環境研究所
研究代表者名	茶谷聡

1. 委員の指摘及び提言概要

系統的にバランスよく研究と今後に向けた施策上の検討がなされており、各サブテーマでも予定を上回る成果を上げている。オゾン濃度低減に向けて参考になる理解しやすい研究成果が得られている。研究成果の発表・発信も活発である。歴史的な大気汚染対策の過程を追って、オゾンを中心とした汚染の原因解明を推定したことは意義がある。海外から流入するオゾンの低減が必要で、そのための国際協調が必要との指摘は重要である。本研究で開発し実施した長期排出インベントリと長期大気質シミュレーションは、過去の高濃度オゾンの経年変化の要因を明らかにし、オゾン感度レジームの遷移に伴う今後の対策評価に貢献する重要な成果であり、環境行政への貢献が期待できる。本研究では、環境問題に対して、時に原理原則よりも動向を記述し予測するプラグマティックなアプローチが有効であることを示した。IPCCによるSLCF排出インベントリ構築への貢献や、SLCFの活用・地域特性についての貢献も期待される。

2. 採点結果

評価ランク：S